

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和4年度 第5回「医療的ケア」委員会 会議録

日時 令和5年2月13日(月) 13:30~15:00

場所 乙訓総合庁舎 第2会議室

出席者 19名

第2乙訓ひまわり園、乙訓ひまわり園地域生活支援センター、向日市社協障がい者地域生活支援センター、乙訓ポニーの学校、乙訓障害者支援事業所連絡協議会、乙訓福祉会、乙訓医師会、京都府乙訓歯科医師会、京都府歯科衛生士会、京都済生会病院、乙訓訪問看護ステーション連絡会、京都府立向日が丘支援学校、乙訓の障害者福祉を進める連絡会(3)、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 3名 キャンパス、乙訓保健所保健課、乙訓の障害者福祉を進める連絡会(1)

事務局 3名

傍聴 1名

配布資料

- ・次第
- ・令和4年度「医療的ケア」委員会 活動報告(案)
- ・令和4年度喀痰吸引等研修プロジェクト 活動報告(案)
- ・令和4年度民生委員・児童委員人権問題啓発研修 アンケート結果
- ・ゼロプロジェクト2023(大藪委員表彰式)
- ・NPO法人医療的ケアネット 第5回オンラインシンポジウム
- ・医療的ケア児者の未来のために
- ・新聞記事～医行為外業務を特定～
- ・新聞記事～医療ケア児も記念撮影を～
- ・新聞記事～医ケア児の通学支援、始動～

議事概要

事務局 ・資料にも付けているが本日欠席の大藪委員が国連から日本代表の2件のうちの1件、病院からの地域移行に貢献されているということでオーストリアの国連本部で今週表彰を受けられる。お知らせさせていただく。

1 医療型短期入所の進捗状況の報告

委員長 ・ワーキングチームより報告をお願いしたい。

委員 ・長岡京市にある介護老人保健施設春風で医療型短期入所が開所し、利用を通じて見えてきた課題の解決に向けて、事務局、行政、関係機関と一緒に話し合い、今後に向けて丁寧に対応していく。

事務局 ・最終、春風と面談の機会を持つことになっている。その面談の前に打ち合わせをしたいと思っている。

2 令和4年度 第2回医療的ケア児コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ研修について

委員 ・第2回目を2月17日金曜日の13時半から乙訓福祉施設事務組合の大会議室で行う。

・先月末に今年度の京都府の医療的ケア児等コーディネーター養成研修が行われ、乙訓では3名の方が新たに受講されている。その方達にも今回から案内をさせていただいた。早速参加していただけたということである。対象者が若干増えて25名となり、今回は12名の参加となる。

・今回は就学されている子どもの事例となる。モデル事例を出していただき、検討する。今回も京都府の医療的ケア児等支援センター「ことのわ」から2名参加していただき、支援センターの取組状況等も講演していただく予定である。

3 地域療育等支援事業について

事務局 ・今年度で事業が終了するかもしれないところだったが、次年度も継続されることになった。

ただ、訪問回数が多い事業所については今まで通りの回数ではいけないかもしれない。

懸念していることはもしこの事業がなくなったら、次年度からどうするのか。急になくなった時に必要な事業として、どうやって継続していくのか、具体的な話をしていないといけないと思っている。次年度も動きがあり次第、報告はさせていただく。

委員 ・はっきりとした報告は受けていないが、来年度も継続ということは聞いている。継続は良いことだが、腑に落ちない。今なぜ継続になったのかという観点と、今後この事業自体を継続していくという京都府の見解があるのか、それとも移行措置として何かの支援を立てるための意向として考えられているのか等の見解を聞きたい。地域療育等支援事業を継続していくことは必要なことだが、元々の府の地域でやっていくという足掛かりになっているところから考えると、いつ何時事業が廃止となることも考えられる。このまま放っておくのではなく、担当者から府に対してどういう観点で今回継続することになったのか、先の見通しとしてどうなのかを聞いていただきたいと思う。

4 今年度報告書（案）

今年度の取組

次年度協議内容

委員長 ・「1 設置の目的、役割等」、「2 昨年度までの経過」はこれで良いだろうか。

・特になければ、「3 今年度の取組状況」はどうだろうか。

事務局 ・第2回の「7) 情報共有」のところで、長岡京市訪問生活介護だけではなく長岡京市重度障がい者就労支援特別事業についてもあがっていたので付け加えていただきたい。

委員長 ・他になければ、「4 今年度の活動」についてはどうだろうか。

委員 ・(4) のところで委員が2つ出てきている。最初の当事者の委員は「医療的ケア」委員会の委員で、3行目の「200名を超える委員の方」というのは民生児童委員のことで、見た時にわかりにくいように思った。

・下から2行目、「後日、講演を YouTube で限定配信し、職員研修として利用もされました。」とあるが、どこの職員かがわからない。そこは書いておいた方が良いように思う。

副委員長 ・「200名を超える民生児童委員の方」とさせてもらう。民生委員・児童委員の書き方も民生児童委員に統一させていただく。

・職員研修は長岡京市での研修のため、「長岡京市の職員研修として」とさせていただく。

委員 ・(6)、「向日が丘支援学校送迎に係る安心サポート事業」ではなく、特別支援学校医療的ケア安心サポート事業が正式名なので、こちらの名称でお願いしたい。

副委員長 ・「特別支援学校医療的ケア安心サポート事業について」と修正させていただく。

委員 ・事業としてはそれで正しいと思うが、具体的には学校への通学の送迎に関するところだったので、事業名だけを書いても何を検討したのかがわからなくなってしまう。そこはわかるように書いた方がよい。医療的ケアが必要な子どもの送迎がスクールバスでできなかったところをこの事業でという検討をしたが、色んな意見があったということがわかるように書いた方がよいと思う。文章のところで「意見があり」、「意見を共有」と意見という言葉が続いているので、後半の「意見」のところを「課題を共有した。」でも良いかと思う。

・地域療育等支援事業のところだが、今日までのまとめになるので、今日出た岩崎委員の意見も盛り込んだ形で書いた方がよいと思う。次年度への申し送りというところで、経過等も入れておいた方がよいと思う。

委員 ・共生型福祉施設構想に係る短期入所についてのところで、最後の「医療的ケア委員会として確認しました。」という文章が気になった。「医療的ケア」委員会の意見として最終そうになったのか、そういう意見が出たという形にするのかどうなのかと思った。「利用できるように望むという意見が出ました。」という感じの終わり方でも良いように思った。ここに「医療的ケア委員会として」というところが何を確認したのかわかりにくいように思った。「利用できるように望むという意見が出ました。」等、そういう意見が出たということを伝える形で良いかと思う。

委員 ・委員会として2床では少ないことを申し入れてほしいと私の意見として出した。そこには必ず、医療的ケアが必要な人も短期入所として利用できることを申し入れてほしいということは意見としてあげている。この委員会は短期入所がないことに着目して、遠方ではなく地域の

中で医療的ケアの人も利用できる短期入所を作ることをひとつの大きな目的として、この委員会を発足していたはずである。「医療的ケア」委員会としてはそのことを強く押し進めていただきたい。実現できなければ何のための委員会なのかと思う。そういう思いも含めてこの委員会では、委員同士の共有課題として共有したことを明記してもらいたい。

事務局 ・この意見が出た時に、それに対して各委員からの意見は出されなかったので、各委員が納得したという形だと思う。反対意見があるなら、その場で反対意見を出さないと協議にはならない。皆の中で納得された意見だったと思っている。皆の意見を伺いたい。

・8月に向日が丘支援学校が引っ越し、建設が始まっていく。全体会の中で2市1町に向けて残る文書になる。京都府にもあげる文書である。ここの書き方はすごく大事になってくる。

委員 ・この議論をした時にそういう意見が出て、それに対して特に反対意見は出なかった。「医療的ケア委員会として確認しました。」というのは、この書き方で良いと思う。「医療的ケアが必要な方が利用できるように整備をしてほしいという意見を医療的ケア委員会として確認しました。」という書き方で良いように思う。

委員 ・何を確認したのかがわかりにくかったので、今の文書だとわかりやすいと思う。

副委員長 ・「4 今年度の活動」についてはこれで良いだろうか。

・次に、「5 次年度の課題と方針」についてはどうだろうか。

委員 ・「(1) 人材育成について」のところで、保育所は入らないのだろうか。入れておかないといけないと思う。

・「(2) 医療型短期入所「春風」の説明会と見学会について」の文書は家族、当事者に向けた周知ということだろうか。

事務局 ・説明会や見学会を実施するという事は委員会の中で出ていなかった。

委員 ・周知の方法を検討するという事になるのだと思う。

副委員長 ・(1)については保育所を入れておく。(2)については今の意見を受けて、考え直したい。

・「(4) 医療的ケア児等コーディネーター研修修了者のフォローアップについて」のところで、「京都府医療的ケア児等支援センター」の後に「ことのわ」を入れておこうと思う。

委員 ・(4)のところで、「注視」という言葉が気になる。「連携」が良いと思う。

副委員長 ・意見が出たところを修正し、報告書(案)を送らせていただく。確認していただきたい。

5 その他

・民生児童委員の研修まとめ

事務局 ・資料を付けている。前回、口頭で報告をさせていただいたが、今回アンケート結果が出たので目を通しておいていただきたい。

・大藪委員がゼロプロジェクトでオーストリアに行かれる話をさせていただいたが、こちらも資料を付けている。

・「医療的ケア児の通学支援、始動 京都市と府が協同で」という新聞記事を付けている。
京都市教育委員会がタクシーの中に看護師だけでなくヘルパーも乗ることで進められている。
・「医療的ケア児も記念撮影を」と多岐にわたって医療的ケア児も同じようにという新聞記事が出
ていたのを付けている。

・福祉新聞に「医行為外業務を特定」という記事が載っていたので付けている。

委員 ・福祉新聞の記事については厚労省の医療と介護の方に通知されたものである。元々、どれが
医療で介護なのか行為を定めていた。それをもう少し具体的にプロセスを明確にしたという通
知である。

事務局 ・2月8日に宇治で行われた「医療的ケア児者の未来のために」という講演会のチラシを付け
ている。衆議院議員の野田聖子氏が講師で来られた。オンデマンドでの配信も可能で、事務局
ではオンデマンドでいただくことになっている。希望される方は問い合わせ先に連絡していただ
きたい。

・医療的ケアネットのオンラインシンポジウムが3月11日に開催される。

委員 ・第5回の今回のシンポジウムは保育所、幼稚園の医療的ケアが必要な方の利用ということで、
この委員会でも個別会等で検討してきたので、ぜひ参加いただければと思う。

委員 ・訪問入浴について報告したいことがある。長岡京市の方でアサヒサンクリーンの訪問入浴を
利用しているが、事業所から急に「2月いっぱいまでしか支援に入れない。」と言われた方がい
る。入浴というのは生きていくためにとっても大事な事である。訪問入浴は週に2回というこ
とに疑問をもっていたが、それも確保できなくなってきている。ととても困っている。家族と
しても当事者としても週に何回お風呂に入れるか入れないかというのはとても大きな問題で
ある。行政にも相談されると思うので、どうか当面何とかしていただきたい。これから先、認
可するにしてもしっかりとしたところを認可していただかないと一年足らずでやめるというの
は困ってしまう。私達の生活の中で色んなことを委ねるといのは通所も含めて、とても大
事なことである。医療型短期入所もそうだが、ここで少しずつ進んできていることは喜ばしく
思っている。ここではなく、もっと違うところで詰めていく話ではあると思うが、障がい者に
とお風呂に入るといことはリラックスしたり、リハビリにもなったり、生活にかかせない
ものである。どうかお力をいただきたいと思っている。

委員 ・同じところを利用しているが、3月から人員が減り、時間が遅くまでできないということは
聞いている。

事務局 ・そういう話があったということで共有させていただいた。

委員 ・京都府の医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者対象の事例検討会を「ことのわ」
が企画され、「ことのわ」の取組の一環として今年度1回目を1月11日午後からテルサで開催
されている。検討の段階から入らせてもらい、関わらせてもらった。今回は2ケース、NICU から
帰ってきた5か月の赤ちゃんの事例と支援学校に通っている子が転居してくる事例をグルー
プで議論してもらった。20名ぐらいの参加で乙訓からは1名参加してもらっている。京都府の
全圏域から参加があった。

それぞれのグループにコーディネーター養成研修の講師をしている人達がファシリテーターと
して付くのだが、医療面のこと等専門的な部分で課題が出てきた時に質問ができる体制を作る

ため、日赤のドクターと訪問看護師、キックという京都市の医療的ケア児の家族会の代表の方等一定の分野のエキスパートの方、及び京都府職員の保健師や理学療法士等の専門職の方にも来ていただき、議論の中で疾病のことや在宅看護の問題等が出てきた時にファシリテーターがその人達との間をつないで、質問をして解説をしてもらう形をとっていた。参加している人は相談支援専門員が多かったが、各グループの中に1人は医療職の方が入ったりしていた。初回から色んな議論ができ、課題について考えることができた。今後も継続していかなれると思うが、乙訓でもこういうやり方を考えていければ良いように思った。

- 事務局 ・今年度は今日が最後の委員会となる。感想等あればお願いしたい。
- 委員 ・短期入所の取組では、新しい試みとして春風に行かせてもらい、これまで『初めから知ってもらっている』守られた中で生活してきたことを実感した。全然知らない人に医療的ケアのことを話したりすることがなかったので、小さい世界の中で生きてきたんだという感じがすごくした。良い経験をさせていただいた。
- 委員 ・今年度初めて参加をさせていただいた。良い勉強をさせていただいたと思っている。
- 委員 ・今年度は個別会でも色々な勉強をさせていただいた。少しでも本人や家族の生活が安心して穏やかに暮らしていけるために、何が必要かを皆で共有できたことが良かった。相談支援の方でも家族と一緒に、今後も考えていきたい。
- 委員 ・当院は病院でありながら社会福祉法人ということで、生活困窮者支援事業やソーシャルインクルージョンに取り組んでいる。今後も一緒に考えていけたらと思っている。
- 委員 ・医療的ケアが必要とされる方の課題は山積している。
次年度以降、周知活動についても推進していきたい。
- 委員 ・最後に今日の資料にある喀痰吸引等研修プロジェクト活動報告(案)についてだが、「2. 昨年度までの経過」のところで「受講者数合計：306名」とあるが「316名」の間違いである。
・資料は見ておいていただきたい。引き続き医療的ケアの周知活動も必要だが、人を増やしていくために喀痰吸引等研修を実施していかないといけないと思っている。
- 委員長 ・今年度最後の委員会をこれで終了させていただく。ありがとうございました。